

はぶ

尤甚シト云、亦蛇ノ屬ナリ、
〔徒然草〕^上めなもみといふ草あり、くちばみにさ、れたる人、かの草をもみてつけぬれば、則いゆ
となん、見しりてをくべし、

〔閑田耕筆〕^三大隅の人の話に、鬼界島大島とくのしまなどには、[○]はぶ[○]文字はといふ蛇ありて、太く長
きもの也、人をとらんとしては、豎になりて其齒をもて、人の頭にても身にてもうつ、うたれたる
所、毒氣にて腐れり、[○]中はぶつかひといふものあり、其島々にて悪事をなせるもの、陳じて善惡
わかちがたき時、其咎ある者を、咎なきものと共に車座にして、彼はぶつかひをよびて、はぶをは
なせば、必咎ある者をうつと也、常にも此はぶにうたる、は、よからぬもの也とかや、[○]下略

異形蛇

〔類聚名義抄〕^十枳頭蛇。俗云兩頭蛇

〔本朝世紀〕天慶元年八月七日辛巳、東院東路、與郁芳門路辻、有兩頭蛇、諸人見之云々、

〔看聞日記〕永享五年閏七月廿七日、兩頭小蛇、一方頭入穴之間不見、尾方有頭、兩頭初而見、希有事也、

〔重修本草綱目啓蒙〕^{二十八下}兩頭蛇 平等へび ^{古名}リヤウトウノへび 一名弩絃 ^{事物}紺珠

尾ニモ頭アル蛇ナリ、然ドモ尾ノハ形ノミニシテ、口目ナシ、是他ノ蛇ヲ吞テ成ルト云、備後ニハ
稀ニアリ、又頭上ニ一頭タチ生ズルアリ、コレモ形ノミニシテ、口目ナシ、又一種岐ヲ分チ、ソノ末
ニ各一頭生ズルモノ、佐州ニアリ、事物紺珠ニ、並頭蛇、長人許、一身兩首並生、花黒色、口目皆能運用
ト云モノニシテ、即枳首蛇ナリ、釋名ニ兩頭蛇トスルハ非ナリ、

〔百練抄〕^五鳥羽、保安三年五月十四日、故二品親王白川堂 ^{善勝寺}前庭有足蛇、出來、爲犬被喰殺、上皇 [○]白河

仰敦光師遠、令勘申子細、

〔古名錄〕中外抄曰、久安四年閏四月四日云々、近則白河院御時、故廣親子白川堂 ^{字善勝寺}有足蛇、又師遠
依院宣註申、女子之祥也、又本朝奇令例爲最去□□申了、今當顯季孫、體皇后出來了、愚女子之祥